## 第 15 回 7/18　前期総括　～学習成果とその活用～

**反畑誠一（たんばた・せいいち）先生**　　音楽評論家　立命館大学客員教授

※講師紹介は、開講式のページに記載

**《講義概要》**

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、前期の総括の講義を行った。中間総括と同様、コミュニケーションペーパーの抜粋と、各講師のご回答を配布した。

まず、中間総括の講義に対する学生からの質問から、この講義の問題提起をした。エンタテインメントの定義やコンテンツ産業の概念を解説した後、エンタテインメント産業と切り離せないデジタル技術を新産業革命の観点からの歴史的に説明し、現在の音楽産業の不振を分析。現在の企業の利潤を追求するやり方や流通システムが時代に合っていないこと、まだ進歩の余地があることなどを指摘した。また、今後のエンタテインメント産業の行方を左右するメディアとの関係について考える際に、マーシャル・マクルーハンのメディア論が糸口になるとし、その一部を解説。マクルーハンに関する文献を紹介した。

最後に、後期の講師や講義内容について話し、前期の講義の総括とした。

**《受講生の感想》**

●１セメスターこの講義を受けてみて、とても自分の価値観が変わったと思いました。「エンタテイメント」について、私はずっと受容する側でしか考えておらず、「産業」という視点から見ることができていなかったと思います。しかし、この講座を受けてみて、「エンタテイメント」をビジネスとしてとらえることができるようになったと感じます。私は、将来エンタテイメントに関わる人間になりたいと考えているため、そのような視点からとらえることを忘れずに、「自分」を成長させていきたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●後期もエンタテインメント産業論を受講するので、また話をしっかり聞いて、また新たな発見をし、知識を身につけてこれからの学習で生かしていきたいと思います。もしかしたら自分の好きな職業を見つけられるかもしれないし、新たな自分を見つけられるかもしれません。この講義はこれからの社会にとって、とても重要になると思います。こんな貴重な話をしてくれる講義は他にありません。受けなきゃ損だと思います。このチャンスを逃さずこれからも毎回この講義を受けたいと思います。立命館大学・産業社会学部・1 回生

●今まで、この講義を受けてきて、今まで考えていたエンタテイメント産業とは違い、ビジネスプロデューサーの不足の問題や、著作権の問題など様々な問題が複数あることを知り、イメージが変わった。一番最後のこの講義では今まで勉強してきたことが深まった。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●エンタテインメント産業界の最前線で活躍している人達の話を聞くことで私自身とても刺激になりました。この授業で起こった感情は「楽しむ」の一つであると思っています。私は学習の場であってもエンタテインメントがありうると思っています。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●マクルーハンのメディア論に興味を持った講義内容でした。自分はメディア社会専攻なので、これから必ず読むことになると思いますが、１回生のうちに読んでみたいと思います。「メディアはメッセージである」というのも深い言葉だと感じました。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●この授業で、多くの素晴らしい先生方のお話を聞いたり、他の学生のコミュニケーションペーパーの抜粋を読むことで、1 つの問題に関して本当に様々な意見を知ることができ、自分の価値観に、すごく良い刺激を受けました。後期もまたたくさんの貴重なお話を聞けることを楽しみにしています。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●メディアとは、本当に移り変わりが激しくてついていくのに大変ですが、「何を拡張するか」「何を衰退させるか」「何を回復させるか」「何に反転させるか」＝過去を知り、次なる未来を見つめること。本講義で様々な、素晴らしい先生方のお話を聞くことができ、新しい価値観を吸収できたと感じます。とても勉強になりました。　立命館大学・産業社会学部・5 回生

●毎回反畑先生が私たち学生のためを思って準備をしてきて下さったり、今日の授業でも私たちの将来・夢を助けるために努めてくれていることが充分伝わりました。最初は、この授業に来て下さってる先生たちがすごい人たちばかりで、エンタテイメント産業自体は身近なのに、経営する立場の人々と会うと急にこの産業が難しいように思っていました。この業界にあこがれて講義を受講したけど、こんなに遠くて、雲の上のものなのかも知れないと感じたりもしました。しかし最近分かったのは、自分が何もしていないからそのように遠く感じるだけで、踏みこめば踏みこむ程キョリは変わるのではないかと。そして最近はエンタテイメント産業の本を読むなど自分自身が変わってきたように思います。　同志社大学・文学部・3 回生

●課題レポートでもあった「エンタテイメントの定義」はずっと知りたかったです。多くの人を楽しませる、感動させるという考えは私も同じでした。そしてその他にも今は、エンタテイメントという大きなくくりで大切なポイントを学ぶことができ、エンタテイメント産業において基本となる知識の理解を深めることができたと思います。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●この講義で、第一線の“本物”の方達の話を聞けたことはとても大きいと思う。

立命館大学・産業社会学部・1 回生